

前向きに挑戦する福井の企業を応援します

F-FACT

ファクト > Fukui advanced companies' try

[特集]

現場改善最前線

～より良い現場を作る～



Vol. 51

fisc

公益財団法人 ふくい産業支援センター

「5S」足掛かりに、働きやすい職場づくりへ

ガーデニング向け資材など塩ビ加工品を広く手掛ける坂井市春江町の第一ビニール。同社は現在、ふくい産業支援センターが行う「インストラクター派遣事業」「ものづくり改善インストラクター学校」を足掛かりに生産現場の改善に取り組んでいます。両事業活用の経緯や成果について、代表取締役社長こばやしひでおの小林秀夫氏と、生産部ゼネラルいのうえやすひろマネージャーの井上康博氏に伺いました。



代表取締役社長
小林 秀夫 氏



同社HPはコチラ！

DATA

第一ビニール株式会社

所在地:坂井市春江町江留中37-10
代表者:小林 秀夫 氏
事業内容:園芸用品・家庭菜園用品・インテリア・
収納用品・PR用品・エクステリア・
レジャー用品・防獣・忌避用品の企画、
開発、製造および販売
TEL 0776-51-5551

CONTENTS

| | |
|----|-------------------------------|
| 表紙 | 第一ビニール(株)工場内 |
| 1 | 【企業事例①】第一ビニール(株) |
| 3 | 現場改善最前線 ～より良い現場を作る～ |
| 5 | 【企業事例②】増永眼鏡(株) |
| 6 | 【企業事例③】黒川川クリーニング社 |
| 7 | 【企業事例④】株寺本鉄工 |
| 8 | 【企業事例⑤】フレック食品工業(株) |
| 9 | インストラクターインタビュー |
| 11 | よろず支援拠点 経営Q&A |
| 12 | 第7回福井ベンチャーピッチ開催報告 |
| 13 | 今月の注目企業 (株)吉光工業 |
| 15 | 上海事務所レポート |
| 17 | グッドデザインシンキング |
| 18 | 総合相談窓口からのご案内 |
| 19 | DX導入事例のご紹介 |
| 20 | インフォメーション |
| 21 | 新スポット巡礼 |



「伴走型」の指導通じて 自発的な行動力を醸成

同社が事業を活用したきっかけは人材確保への意識の高まりにありました。会社見学などで就職希望者を受け入れる際、若い人たちに現場の魅力を伝えることは採用活動における重要なポイント。そこで「自分たちが働きやすい職場をつくるのが魅力向上への第一歩」と、「整理」「整頓」「清掃」「清潔」「しつけ」の5要素からなる「5S」の取り組みを行うこととしたのです。

「ところが……」と井上氏は振り返ります。「過去にも何度か5Sには挑戦していたのですが、なかなかうまくいきませんでした。自社の力だけで取り組もうとすると目標達成の指標を設定しづらく、始めてもフェードアウトすることが多々あったのです」。そこで同社が選択したのが、インストラクター派遣事業でした。

「インストラクターは現場に合った目標設定をし、伴走型で共に歩んでくれました。と、いつても手取り足取りの指導ではなく、『実際に動くのはあなたたち』とメンバーをうまく乗せる術にもたけていました」と小林氏。目標を常に問い掛ける指導がモチベーション維持につながり、井上氏も「作業場が一度きれいに

なると汚れたところが目立つので、さらにきれいにしようとする自発的な動きにつながりました」と話します。

スクール事業活用で 現場のコア人材育成を図る

インストラクター派遣事業



今回5S活動を行った第一工場内の全景。白線引きや安全柵の設置も行った。

の手応えを基に、同社が次に取り組んだのが「ものづくり改善インストラクタースクール」への社員派遣です。スクールは生産効率を高める設計や作業の流れなど現場改善の知識や手法を学ぶという内容。「社員教育プログラムの体系化は中小企業にとっての弱点」(小林氏)という課題を克服すべく、コア人材育成のためのOFF-JTとして活用することとしました。

社員2人が受講したスクールは昨年7月～9月に行われ、グループワークなどを通じて県内のものでづくり企業との情報共有も行われました。「他社との交流により、当たり前だと思っていた『社内の常識』を変えるきっかけを得られました。現場改善のノウハウを共有できたのもよかったです」と井上氏。修了後も参加企業を見学し合ったりするなどの交流が続いているといい、「ものづくりの最先端に行く県内企業と交流できることに喜びを感じています」とも話します。



同社はガーデニング向けの資材などを主に製造している。

効果測定手法を確立し 今後、全社的な展開へ

両事業への取り組みについて、小林氏は「課題解決に至るストーリーの作り方が分かったことが大きな収穫でした」と総括。「課題を指摘するまでは簡単なことなのですが、解決というゴールからさかのぼって手順を組み立てる過程でのつまずきが多かったからです。ストーリーを描いて取り組んだプロジェクトは社員自身の満足度も高いと改善だけでなく商品開発にも

欠かせない視点であると強調します。事業活用で得られた知見を基に、今年度は業務改善の効果測定手法の確立を目指します。手始めに生産部門の2022年度年度目標に作業動線のむだの解消などを掲げ、客観評価による振り返りを記録していくことを決定。小林氏はこれらの知見を管理部門や営業部門へ展開する考えも示し、「リーダー自ら汗をかき率先垂範の行動で全社的な改善につなげたい」とプランを描きます。

現場改善最前線

より良い現場を作る



人手不足が深刻となっている昨今、限られた人員で高付加価値のものづくりを実現するためには、生産性の向上が課題となります。ふくい産業支援センターでは、「福井ものづくり改善インストラクタースクール（以下、スクール）」、「同インストラクター派遣事業（以下、派遣事業）」を実施しており、これらを活用し多くの県内企業が現場改善に取り組んでいます。今回の特集では、スクール事業、派遣事業を利用し、現場改善に取り組んだ企業事例をご紹介しますとともに、現場改善に必要な視点と手法を探っていきます。本ページでは、スクールの概要・これまでの流れと現場改善に取り組むにあたっての考え方をご紹介します。

福井ものづくり改善インストラクタースクールとは？

2016年、ものづくり企業の生産性を高めることを目的として開校した同スクールは、昨年で第6期を迎えました。福井県内においては多品種少量生産、一品物生産を行う企業が多く、管理情報の流れが悪いために現場に行かないと進捗状況が分からない、といった課題を抱える企業も多く存在します。こうした課題を解決するためには、現場の「良い流れ」を作ることが重要であり、スクールでは、「良い流れ」を作るための現場改善の知識や手法を、座学・演習・現場改善実習を通じて学んでいきます。（下表参照）

第7期 インストラクタースクールカリキュラム(計画中)

| | AM | PM |
|------|-----------------------------|------------------------------------|
| 1日目 | 開講式・コミュニケーション | スクールガイダンス・ものづくり基礎概念 |
| 2日目 | コストと生産性・企業の競争力 | 現場改善実習現場見学 |
| 3日目 | 製造監督者の役割・リーダーシップ | 5S・品質管理 |
| 4日目 | IE（工程・連合作業・稼働・時間分析） | 演習（ビデオを活用し全体を把握する） |
| 5日目 | 標準作業と標準時間・作業改善 | 演習（ビデオを活用し課題発見の実例体感） |
| 6日目 | モノと情報の流れ図・講義 | 演習（流れ図をチームで作成） |
| 7日目 | 問題発見の着眼点 | QCストーリー把握・業務フロー |
| 8日目 | 現場実習に向けたIE分析演習（分析手法による課題発見） | 現場改善実習の進め方・全体発表・個人発表資料の作り方・プレゼンの仕方 |
| 9日目 | 事前打合せ・改善実習 | 現場見学・テーマ設定 |
| 10日目 | 現場改善実習 | 現場改善実習 |
| 11日目 | チームディスカッション | チームディスカッション |
| 12日目 | 現場改善実習 | 現場改善実習 |
| 13日目 | チームディスカッション | チームディスカッション |
| 14日目 | 現場改善実習 | 現場改善実習 |
| 15日目 | チームディスカッション | チームディスカッション |
| 16日目 | 実習先でのチーム発表・個人発表 | 実習先でのチーム発表・個人発表 |
| 17日目 | 全体チーム発表 | 個人発表・修了式 |

※カリキュラムについては変更する場合がございますので、詳細はHPでご確認ください。

お問い合わせ
公益財団法人
ふくい産業支援センター
人材育成部(中小企業産業大学校)
〒918-8135 福井市下六条町16-15
TEL 0776-41-3775
FAX 0776-41-3729

「価値を生む」作業と業務フロー

ものづくりにおいて価値を生む作業は、製品に設計情報を転写していく作業です。こ

の作業を正味作業と呼び、正味作業のみが価値を生み出します。言い換えれば、正味作業以外の作業（付随作業など）はすべてムダな作業ということになり、ムダな作業をどのように無くしていくかを考えることが現場改善では重要になります。

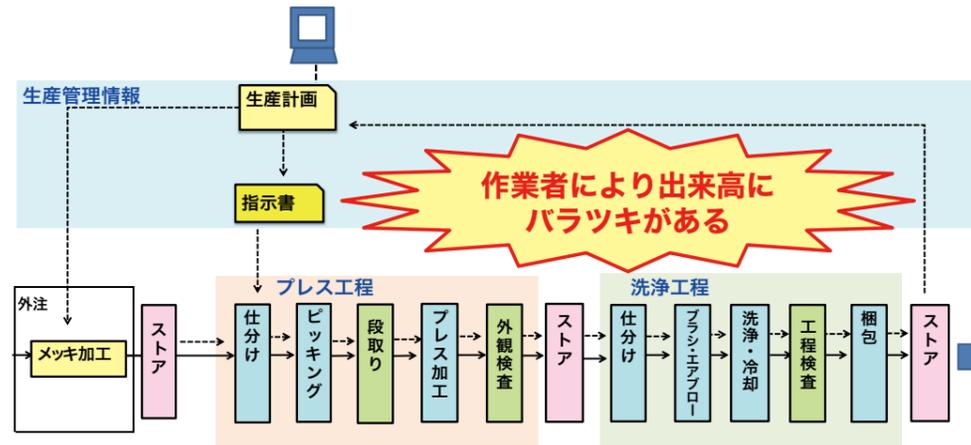


図1 モノと情報の流れ図の一例

また、現場改善に取り組みにあたって、まずは業務フローを作成する必要があります。業務フローがなければ、モノと情報が現場でどのように流れているかを把握することができません。業務フローを作成することで、モノと情報の流れを「見える化」させることができ、業務全体が俯瞰され、課題を明確にすることができま

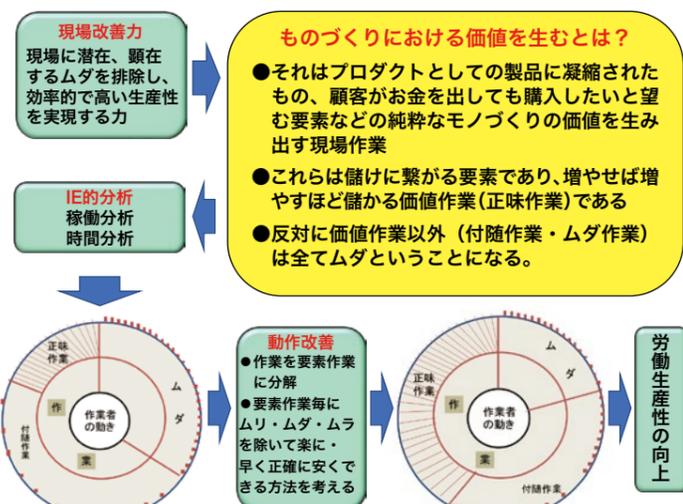


図2 出典:東京大学ものづくり人材育成スクール資料

こと、「時間分析」では正味作業などのそれぞれの作業を要素作業に分解し、要素作業ごとにムダを排除することで要素作業時間を短縮していきます。（図2参照）こうした分析の際には、作業をE（排除できない）C（結合できない）S（簡素化できない）という4つの視点で考え、作業のムリ・ムダ・ムラを無くして、楽に早く・正確に安くできる方法を考え抜いていくことが重要です。

他社との交流を図ることができるのもスクールの大きな特徴で、現場改善実習では受講生でチームを組み、実際に他社の現場を分析し改善案を提案します。修了生の声を見てみると、「異業種の方々と共に学ばせていただき、現場改善実習にもチームとして臨みました。最近他社を見る機会はありませんが、話を聞いてみると同じ福井の中小企業だと共感しました」といった声もあり、異業種交流の場としても大きな意義があることも伺えます。

来年度もスクールの開校を予定しておりますので、ぜひ受講と派遣事業のご活用をご検討ください。

スクール受講をきっかけに、改善活動を進めていく



同社HPはコチラ!

福井県を中心にクリーニング店を展開している株式会社黒川クリーニング社。1点1点形や汚れが違うものを仕上げるという特殊な業界事情の中、スクールで得た知識や経験をもとに改善活動を進めています。今回、専務取締役の黒川俊之氏と、スクールを受講した生産本部部長の野村和弘氏にお話を伺いました。



生産本部 部長
野村 和弘氏

DATA

株式会社黒川クリーニング社

所在地: 坂井市春江町随応寺20 (本社)
代表者: 黒川 秀晶氏
事業内容: ファッションウェア、和服、毛皮等衣類
一般のホームクリーニング加工サービス
TEL 0120-33-4646

同社はこれまでに、2名をスクールに派遣。野村氏ともう1名の修了生を中心に改善活動を行っており、取組みの一つとして、「検品から洗い場までの動線を短くした」とを挙げます。工場内は1階と2階に分かれており、2階で加工前の検品(ポケットにモノが入っていないかな

加工前の検品からクリーニング工程までの動線を短縮

野村氏は「当初、スクールは製造業向けのものであり、学ぶ内容も私たちの業界では応用できないのではないかと考えていました。ただ、スクールを受講している内にムダをいかに無くしていくか、といった考え方や改善の視点は、どの現場においても共通することだと気づきました」と振り返ります。

また、野村氏は「異業種の方と意見を交換できたことも収穫でした。他社の方とそれぞれの現場での苦労や、部下の指導方法など色々な話がありました」と話します。

スクールで得た視点、異業種の方との交流も

黒川専務は今後の展望として、「スクールには継続して従業員を派遣していきたいです。スクールを受講し、同じ視点・考え方でチームとして

チームとしての改善活動と工程管理ができる体制づくりを

黒川専務は「現在の最終検品工程の改善に取り組んでいます。まだ色々と検討している段階ですが、再加工を依頼されるものが1日あたり、4〜5点出てしまっています。再加工をゼロにできるように改善を進めていきたいですね」と今後の改善活動を見据えます。



工場内の全景。多い時には加工数量が1日に5,000点を超える。



工程の一部。モノによって加工工程も違う。

活動できる体制を作りたいですね」と話します。同社は派遣事業も活用しており、担当の清水インストラクターからは、「予測に基づく工程管理ではなく、事前に1日の加工点数を把握し、工程管理ができる仕組みづくりと加工量の平準化」が課題であるとの指摘がありました。「この2つはまだ課題として残っていますが、派遣事業を通じて現場内で意見を出し合う風土ができました。スクールの受講者を中心に、改善に対する姿勢が前向きになっていくので、将来的にはこの2つの課題をクリアし、しっかりとした工程管理ができるようにしていきたいですね」と黒川専務。スクールの受講は続いています。

スクール受講生を中心に小さな改善活動を積み重ねる



同社HPはコチラ!

1905年に創業した増永眼鏡株式会社。長い歴史の中で福井の眼鏡産業を牽引してきた同社は、今年開催されたスクールに受講生を2名派遣しました。代表取締役社長の増永宗太郎氏にスクールへの派遣のきっかけや、今後の見通しなど、詳しくお話を伺いました。



代表取締役社長
増永 宗太郎氏

DATA

増永眼鏡株式会社

所在地: 福井市今市町4-15 (本社)
代表者: 増永 宗太郎氏
事業内容: 高級眼鏡フレームの製造及び販売
TEL 0776-38-1501



改善実習のテーマとなった工作機械での加工工程。

2021年、スクールに2名の受講生を派遣

眼鏡フレームの製造を手掛ける同社は、2021年、2名をスクールに送り出しました。増永氏は、「スクールの存在を知ったのは、支援センターからの案内がきっかけでした。知り合いの社長さんたちの会社もスクールや派遣事業を活用し、改善活動を進めていることもあり、派遣を決めました」と振り返ります。初めての派遣であることと、1名だけだとスクールを終えた後の改善活動が社内には伝播しづらいだろうということとを考慮し、2名を派遣。増永氏は、「17日間という長い期間のカリキュラムをやり切ったという自信があったの

現場改善実習の場も提供、課題を再確認

また、同社はスクールのカリキュラムの一つである現場改善実習の場も提供しました。実習の中でテーマとなったのが、工作機械での加工工程における手待ち時間が長いこと、どのように多台持ち*1にしていこうかという点でした。「以前から社内でも課題となっていました。外部からも指摘されることで、課題を再認識することができました。」

同社はさらに、スクールに参加していた他社の工場を見学。見学した工場では、女性が多台持ちで作業を行っており、増永氏は「これまで自社内でできないだろう、と考えていたことが、思い込みだったということに気づかされました。こうした異業種の方との交流が生まれたことも良かったですね」と振り返ります。

小さな成功体験を積み重ね、大きな改善に繋げる

「スクールの修了式の中で、小さな成功体験を積み重ね、大きな改善に繋げていくとい



完成品の数々。完成品になるまでに約200の工程が存在する。

うお話がありました。腑に落ちたのを覚えています」と増永氏。「大きな改善というのはお金と時間がかかりますし、長い期間で考えていかなければいけません。日々現場でできる小さな改善を積み重ねていくことも重要だと考えています。」

増永氏は、今後の課題として「コミュニケーションの活性化」を挙げ、「すぐに改善できるもの、できないものがあります。ここに問題があるということが上がってくる環境を作り上げたいですね。そのためには、思い込みを取り払う、常に改善意識を持つことが必要だと思います。スクールの受講をきっかけにこうした姿勢が広がっていく」と展望します。

*1 一人の作業者が同種の機械を複数受け持ち、作業すること。

スクールを通じ、モノづくりに共通の考え方を学ぶ 社内研修もスタートし、知識の共有を



永平寺町で茶碗蒸しなどの食品製造を行うフレッグ食品工業株式会社。今年開催されたスクールに2名の受講者を派遣し、スクール受講をきっかけに、社内研修もスタートさせました。スクールを受講された常務の齋藤督文氏と、第一商品部部長の布川洋平氏にお話を伺いました。

DATA
フレッグ食品工業株式会社

所在地: 吉田郡永平寺町諏訪間65-1-1
代表者: 齋藤 眞理夫 氏
事業内容: 食品製造販売業・卸売業
TEL 0776-63-3633

また、同社は企業OB受講生による現場改善実習の場を提供。改善点として「茶碗蒸し製造工程における充填工程の効率化」が挙げられました。茶碗蒸しの製造には大きく分けて10の工程があり、充填工程がボトルネックとなっています。この工程では、具材を

**企業OB受講生から
充填工程の改善提案も**

スクールを通じ、モノづくりに共通の考え方を学ぶ。齋藤氏はスクールでの学びを、「モノづくりとは設計情報を転写していく作業だ」という基本的なことや、特性要因図^{※1}による原因分析の手法など、モノづくりに共通する考え方を学ぶことができました」と振り返ります。また、布川氏は「ビデオ分析でのムダの発見など、改善とは論理的かつ定量的に分析を行い、その結果を数字で把握することだということ学びました。これまで自分が行ってきた改善とはギャップがあったので、現場を見る目も変わりました」と話します。



入れて卵液を充填するという作業を行っており、5名を対面で配置。それぞれが担当する具材を投入します。そこには、対面での作業のため、同時に具材を入れられず手待ちが発生するというムダと、互いの手が干渉してしまうという問題がありました。これに対し、「具材を投入する専用ラインを増設し、作業者を1列に配置する」という内容の提案がありました。具体的には、作業者を1列に配置することで、手待ち、手の干渉がなくなり5名から4名に省人化できるといいます。布川氏は、「まだ実現には至っていませんが、提案内容は実行に移す予定です。提案の際の資料・プレゼンから、改めて改善とはこのように進



同社は茶碗蒸しを中心に、食品を製造している。

めていくのかと刺激になりました」と話します。
スクール受講をきっかけに社内研修を開始、知識の共有を
他方で同社は、スクールの受講をきっかけに社内メンバーが交代で講師となり、研修を行うという取り組みも開始。齋藤氏は「スクールの受講をきっかけに学ぶことの大切さを再認識しました。皆の知識を共有するという意味でも、社内での研修を始めました」と話します。これまでに、HACCPの管理手法や接客に関する研修を実施し、齋藤氏は「こうした活動を通じて、持続的に成長していける集団を目指していきたい」と力を込めます。
※1 特定の結果と要因との関係を系統的に表した図、形状から魚の骨とも呼ばれる。

インストラクターの指導により、 会社全体に改善意識を



福井市で機械設計・製作・組立を行う株式会社寺本鉄工。ものづくり改善提案具体化事業を活用し、工程進捗を共有できるシステムの導入と各部門のリーダー層への研修を実施しました。今回、事業活用の経緯や活用後の変化について、代表取締役の寺本光宏氏にお話を伺いました。

DATA
株式会社寺本鉄工

所在地: 福井市三十八社町32-19-31
代表者: 寺本 光宏 氏
事業内容: 機械設計製作・組立・加工
TEL 0776-38-5118



代表取締役 寺本 光宏 氏



同社HPはコチラ!



グループ会議の様子。

「事業を活用したきっかけは、働き方改革が叫ばれる中で生産性向上を図る必要があったこと、グループ長に業務の改善を行う視点や手法を学んでほしいと考えたことです」と寺本氏。同社は以前から、社内改善提案を募集する制度を導入、運用していましたが、導入当初は、提案も上がってきませんでした。次第に提案の数は減少し、なかなか意見が上がってこないという状況に。そこで、全10回のインストラクター派遣を通じて各工程の進捗状況を共有できるシステムの導入と、各部門のリーダーを対面で配置。それぞれが担当する具材を投入します。そこには、対面での作業のため、同時に具材を入れられず手待ちが発生するというムダと、互いの手が干渉してしまうという問題がありました。これに対し、「具材を投入する専用ラインを増設し、作業者を1列に配置する」という内容の提案がありました。具体的には、作業者を1列に配置することで、手待ち、手の干渉がなくなり5名から4名に省人化できるといいます。布川氏は、「まだ実現には至っていませんが、提案内容は実行に移す予定です。提案の際の資料・プレゼンから、改めて改善とはこのように進

**きっかけは生産性の向上と、
グループ長の能力開発のため**

**意見を出し合う風土が完成、
情報共有化も進める**

**メンバーを変え5S活動も、
自立した組織づくりを**

同社は今後もインストラクター派遣を活用し、5S活動にも着手する予定です。「今回のインストラクターの指導により、良い組織風土ができつつあります。この流れを継続できるように、メンバーを変え、5Sの指導もしてもらおうと考えました」と寺本氏。「改善のプロであるインストラクターから学び、常に改善意識を持ち、良い提案がどんどん上がってくるような自立した組織づくりを目指していきたいです」と展望します。



同社が製作する機械。設計から電気まで一貫して行う。

インストラクター インタビュー

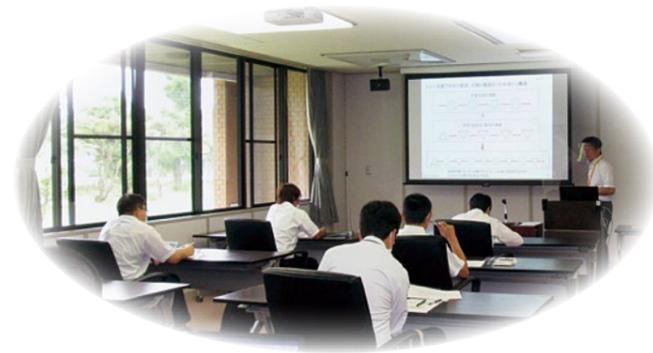
改善の視点、心構えを探る

ものづくり改善インストラクターとして県内企業の改善指導に従事している清水昭彦氏と金子敏己氏にインストラクターとして活動するようになったきっかけや、インストラクターとして心掛けていること、現場改善において重要なことなど、詳しくお話を伺いました。



2019年、コンサルタントとして独立し、株式会社システムコネクを設立。ITコーディネーター（経済産業省推薦）・中小企業支援アドバイザー・企業ミラサゴ専門家派遣登録専門家。福井スクール第4期を修了し、多数の製造業で現場改善・業務改善・システム化導入支援に従事している。

■ 清水昭彦氏
（ものづくり改善インストラクター）



——インストラクターになっ
たきっかけや活動について教
えてください。

清水氏 2019年5月にコ
ンサルタントとして独立した
のですが、独立の際に窪田氏
に声をかけていただいたのが
きっかけです。今年はスクー
ルの中で、講師もさせていた
だきました。製造現場におけ
るモノと情報の流れ分析を主
に行っています。

金子氏 私も窪田氏から紹介

があり、インストラクターと
して活動させていただいてい
ます。

これまで約20件、インスト
ラクターとして改善指導にあ
たりました。その時々でテー
マは違いますが、5Sの指導
に当たることが多いですね。

——インストラクターとして
活動している中で、県内企業
の状況をどのように捉えてい
ますか？

を理解していただかなけれ
ば、2〜3ヶ月後には形骸化
してしまいますので。改善
の効果が表れるのには時間が
かかりますので、継続して
行っていたら心掛ける必要が
あります。

金子氏 企業の方に自ら気づ

きを得て、行動、改善しても
らうということですね。イン
ストラクターとして関わるこ
とのできる期間は限られてい
ますし、私が離れた後にも継
続してもらえなければ、意味
がないですから。私が指示
して改善してもらおうのではな
く、自ら気づいて改善したと
いう達成感を得てもらおうとい
うことを心掛けています。

——現場改善において重要な
ことは何でしょうか？

清水氏 進捗状況など、情報
の見える化を図っていくこと
が重要だと考えています。先
ほどもお話したように、工程

清水氏 人材育成も含め、そ
もそも課題がどこにあるのか
分からないといった状況にあ
る企業が多いと感じます。工
程管理等が現場リーダーの頭
の中で完結していることも多
く、その方が退職間近となり、
様々な課題が浮き彫りになる
といったケースもあります。

こうした状況にある企業の掘
り起こしと、人材育成を含め
た課題に目を向けていただけ
るよう促していくこともイ
ンストラクターの役割だと考
えています。

清水氏 製造現場の人材育成

にも目を向けて欲しいという
ことです。冒頭お話ししたお
り、ベテランの方が退職間際
になってしまっただけでは、
引き継ぎなども間に合いませ
ん。スクールでは、製造現場
での知識を総合的に学ぶこと
ができるので、スクールの受
講をきっかけに人材育成に
も目を向けていただければ
幸いですね。

金子氏 改善に取り組むにあ

たっては、まずは自分たちの
現在の立ち位置をはっきりさ
せた上で、目標をきっちりま
定めることが大切だと思います。
私が指導にあたる場合、
5Sの進捗度合いに応じてレ
ベルを1〜5に分け、現在の
立ち位置と目標レベルを定め
ることから始めています。目
標をしっかりと数字にするこ
とで、達成感にも繋がると思
いますので、社内で改善に取
り組む際にも目標をきっちり
と定めていくことが大切だと
思います。

インストラクター派遣事業・具体化事業をご活用ください！

現場改善を行いたい企業に対して、スクール事業を修了したインストラクターを派遣しインストラクターが中心となり経営者・現場の幹部の皆様からのヒアリングと現場観察により改善提案を策定し報告します。具体化事業では、幹部・中堅社員とインストラクターが一体となって、現場改善活動を実践します。この機会に、ぜひご活用ください。

- 派遣事業 経費 3万円(税込み)/回×5回=15万円(税込み)
- 具体化事業 経費 4万円(税込み)/回×10回=40万円(税込み)



5S

- 整理・・・不要なものを捨てる
- 整頓・・・必要なものをすぐに取り出せる状態にする
- 清掃・・・掃除をしてゴミ・汚れのない状態にする
- 清潔・・・整理・整頓・清掃を実行し、きれいな状態を維持すること
- 躰・・・決められたルールを実行する習慣づけ

5Sのそれぞれの意味。これらを徹底し、企業体質を変えていく。



■ 金子敏己氏
（ものづくり改善インストラクター）

福井スクール第2期を修了し、ものづくり改善インストラクターとして県内企業の現場改善に従事。これまでに、5S活動をベースとした職場改善・品質管理強化や現場の効率化など、約20件の改善に携わる。

第7回 福井ベンチャーピッチ開催報告 前編

「福井ベンチャーピッチ」とは、成長意欲の高いベンチャー企業に対して、VC、金融機関等の前でセールスプレゼン（ピッチ）する機会を設け、登壇企業の資金調達や販路拡大、ビジネスマッチングを促進し、全国への足がかりをつくる機会を提供するイベントです。

開催日時 ● 2021年11月17日(水)
参加者数 ● 256名 (会場参加者83名・オンライン参加者173名)
主 催 ● 公益財団法人
ふくい産業支援センター

ふくい産業支援センターでは、2021年11月17日に、第7回「福井ベンチャーピッチ」を開催いたしました。本イベントは3部構成となり、第1部では、福井県知事 杉本達治氏とユニフォームネクスト株式会社 代表取締役 横井康孝氏をゲストスピーカーに迎え、「福井発ベンチャーへの期待」と題してオープニングセッションを行いました。

第2部では、福井県の中小ベンチャー企業5社によるビジネスプレゼンテーション、ベンチャーピッチを行いました。第3部では、リーダー・インビテーションとして、コネクトフリー株式会社 代表取締役CEO 帝都久利寿氏に「サイバーバレー宣言：福井は日本の西海岸!」と題してお話いただきました。

本稿では、福井ベンチャーピッチに登壇された5社の感想を、前編・後編に分けてお届けします。



「医療HRをアップデートする」

株式会社REGIE

代表取締役 藤本 一希氏(20代)



期待事項：資金調達
設立年：2020年

主な事業：医療系学生向けのメディア、インターン、コミュニティ運営、就職支援、医療者向けの転職支援、シェアハウス

プレゼン発表の様子は2022年3月末まで視聴できます

福井ベンチャーピッチ登壇に向けて、いろいろな方にご指導いただいたおかげで、今日の日を迎えることができました。「自分の想いと違うことはしない方がいい」と率直に伝えてくれる方ばかりで、それが本当にありがたかったです。「数字以上に自己矛盾の無い選択を」と言うことを常に言ってくれる支援環境がとても恵まれていました。そういうモチベーションを自分だけで保つのは苦しい時もある中で、最終的にふり返ったときに、「これがやりたかった事だ!」といえることをやりたいと改めて思う時間でありました。



「空き家再生で世の中を変える」

まいほむ株式会社

代表取締役 牧野 智樹氏(40代)



期待事項：資金調達・業務提携
設立年：2018年

主な事業：中古住宅再生販売事業

プレゼン発表の様子は2022年3月末まで視聴できます

初めてこのようなビジネスプレゼンの場に参加することで、三つ思うことができました。一つ目は、自分のビジネスをこんなに他人に聞いてもらえる機会が初めてだったこと。二つ目は、自分のビジネスに対してここまでフィードバックしてもらえる機会も初めてだったこと。そして三つ目は、一緒に登壇するメンバーがみんな「戦友」みたいなそんな新鮮な気持ちになったこと、です。福井ベンチャーピッチ登壇をきっかけに、自分のビジネスを改めて精査することができ、そして可視化することができ、すごく良い経験になりました。この経験を、今後どんどん活かしていきたいと思えます。



今回の「福井ベンチャーピッチ」は2022年秋頃に開催する予定です。登壇に興味のある方は、ぜひお気軽にお問い合わせください。なお、イベントの詳細はこちらのブログ記事でもご覧いただけます。

https://www.s-project.biz/staff-blog/fvp_7

執筆者：新産業支援部 ベンチャー・EビジネスG 岡田留理



よろず支援拠点 経営Q&A

SNSの有効活用編



疑問の概要

これからの時代はInstagramやフェイスブックを上手に活用できないと集客などで苦戦するから始めた方がいいと言われていたのだが、使ったことがないのでどうしたらいいのか分からない。

SNSの仕組みを理解する

SNS(ソーシャルネットワーキングサービス)は基本的には会員登録すると他の会員とネット上で繋がり、情報交換などの交流ができるというものです。現在はTwitter、フェイスブック、Instagramなどが主なツールとして使われています。10代~20代ではティックトックという動画投稿サイトもよく使われています。

代表的なSNS

(1)Twitter

2008年に日本語版でのサービス開始。140文字(現在は半角280文字、全角140文字)という制限のなかで自由に情報を発信する短文投稿サイトです。情報の拡散力が高いといわれています。

(2)フェイスブック

2004年にアメリカでスタートし、2008年には日本語でのサイトがスタートして2010年頃から本格的に普及。会員登録は実名が基本で、友達申請を送って承認されると交流できます。相手が見える感覚があり、つながりと承認欲求を満たしやすい。アクティブユーザーは40代以上が多いです。

(3)Instagram

2010年にスタートし、2014年に日本語版のサービス開始。インスタ映えといわれる特徴的な画像をアップロードすることでフォロワーが増加した時期があり、1億人を超えるフォロワーがいる芸能人もいます。一般人でも多数のフォロワーを持つ「インスタグラマー」と呼ばれる人がいます。ハッシュタグで検索され、若い世代のユーザーが多いです。

SNSをビジネスに活用するためのポイント

(1)ターゲットとの整合性を理解する

前述の3種のSNSをみても、ユーザーの構造や使い方が全く異なるので、それぞれの特性とビジネスとの整合性を把握しておくことが重要です。

例えば、20代の若者を狙いたいのにフェイスブックしか使わないのでは、ターゲットに情報が届かず成果に繋がりません。逆も然りで、50代以上を狙うのにTwitterだけでは上手くいきません。



(2)効果的な使い方を理解する

それぞれに「いいね」が付きやすい投稿の仕方があります。例えば、Instagramの場合は映える画像だけではダメで、文章を読みたくする工夫が必要です。複数の画像を使う場合は、1枚目に一番インパクトがあるものを使い、2枚目以降も見るように誘導する文章を入れておくことがポイントです。

また、ハッシュタグやチェックインは必ず追加しましょう。30代以下が検索するのはInstagramのハッシュタグです。ここで検索してもらえないと投稿した情報がフォロワー以外に流れず、集客に繋がりません。自分のお店を投稿してくれた場合は必ず御礼のコメントを書き込みます。その投稿にある他のコメントにも返信をしましょう。Instagramでの集客には、「いいね」の数も大事ですが、コメントの数や投稿を保存した数は更に重要な要素になっています。

フェイスブックでの投稿も画像を添付した方が文章だけの投稿よりも読まれやすくなるようです。分かりにくいキャプションのようなものではなく、読んで面白い、役に立つな、と思ってもらえるような文章にすることがポイントです。

(3)ユーザーに発信してもらって口コミを作る

SNSは自ら情報を発信することが簡単にできるツールですが、自己が発信した情報は宣伝と捉えられます。合理的な使い方としては、顧客や利用者積極的に発信してもらうことが肝要です。現代の消費行動はAISASといわれ、注意(Attention)、関心(Interest)、検索(Search)、購買(Action)、共有(Share)というような段階を経るといわれます。

ネット上で検索されることと購買後に共有されることが増えると、自らが発信する場合とは比較にならない速度で情報が流通し、効率よく情報が拡散します。

どのような投稿がされているかを知るためには会員登録が必要なので、アカウントは作っておくべきですが、顧客に上手に発信してもらう仕掛けを考えて運用し、投稿内容に対して「いいね」やコメントをするという運用が効果的です。

福井県よろず支援拠点では、SNSのビジネス利用などIT活用をはじめ、経営のさまざまな課題に専門家が無料で何度でもご相談に応じています。お気軽にお問い合わせください。

お申し込み・お問い合わせ先



福井県よろず支援拠点

TEL:0776-67-7402 E-mail:yorozu@fisc.jp



今月の注目企業



代表取締役 吉田 知志氏



同社HPはコチラ!

株式会社吉光工業

所在地：福井市高木中央2丁目510
 代表者：吉田 知志氏
 事業内容：屋根、外壁、雨樋工事、
 リフレクティックス遮熱工事
 TEL：0776-54-0706



越前瓦を「織る」新しい建築資材 福井の文化と産業を世界へ発信

株式会社吉光工業

江戸時代から作られる越前瓦と福井の地場産業である繊維を掛け合わせた建築資材「ウーブンセラミック越前」。屋根・外壁・雨どい工事を専門に行う株式会社吉光工業が、初の自社製品として開発しました。越前瓦を交差させ織物に見立てた同製品は、越前瓦の新分野への活用と新市場の開拓を促すものとして注目されています。開発の経緯と展望について、代表取締役の吉田知志氏に伺いました。

屋根から壁へと発想を変え 越前瓦で福井の繊維を表現

雪深い福井の屋根材として使われてきた越前瓦。日本六古窯のひとつである越前焼と同じ鉄分を含む粘土を用い、還元焼成^(※)で仕上げることで銀鼠色の美しい風合いが生まれます。福井県の地域ブランドのひとつですが、近年は屋根材の多様化やコスト面などで需要が減少。その越前瓦を、屋根ではなく、意匠

性と機能性を兼ね備えた新しい建築資材として用いたのが「ウーブンセラミック越前」です。

開発のきっかけは、小笠原弘建築計画の建築家 小笠原弘氏のアイデアでした。2017年、新店舗のファサードを設計中、「壁面に、越前瓦のアーチで福井の織物を表現したい」と発想。大手メーカーに勤務していたときの後輩で、屋根工事業を手がける吉田氏に話があったとい

ます。

「福井の繊維を、越前瓦を用いて建築で表現するのは新しいし、おもしろいと感じました。でも、まさか製品開発までするとは思ってもありませんでした」と吉田氏は振り返ります。

課題となったのは、繊維を表現するため越前瓦をアーチ状にし、金具でどう固定するか。吉田氏は福井県瓦工業協同組合の専務理事である藤原氏に相談します。藤原氏は軽



建築や景観を「アート」に変える新しい建築素材「ウーブンセラミック越前」。

型を使って試作品を焼き上げました。

※窯内の酸素供給を制限する焼き方

軽量化や施工性を追求して 越前瓦の新市場開拓実現へ

それぞれが試行錯誤を繰り返しながら、2018年春に



軽量化を図るため裏面の削り方を検討。金具を含め、試作を繰り返しました。

試作品が完成。越前瓦を平織りの織物のように交互に編み込んだ店舗のファサードは高いデザイン性で好評を博しますが、軽量化や施工性の向上、低コスト化などの課題が残ったといえます。

翌年、吉田氏は越前瓦の新しい建築資材として事業化を図り、新市場を開拓するべく、ふくいオープンイノベーション推進機構に技術相談を行います。福井県工業技術センターや福井大学とも連携し、県の「将来のふくいを牽引する技術開発支援事業補助金」を活用して製品化を目指すことに。プロジェクトにおいて、吉田氏は全体の進捗をはじめ、量産化しやすい金具・

金型の開発や施工性の検討などを担当。小笠原氏によるデザイン性の向上、藤原氏による焼成条件や軽量化などの技術課題の解決、石山氏による量産焼成製造の協力などを得て、2020年に「ウーブンセラミック越前」が完成しました。

「いったん完成となりましたが、今も改良中です。平織り以外の織り方もできると思うし、福井の他の産業とのコラボもやってみたい。まだまだアイデアを広げていけると思っています」と展望を語ります。

話題性高め文化を復活 福井に行きたくなる建築を

2021年、同社は外装に「ウーブンセラミック越前」を施した新しい事務所を完成させました。「製品のインパクトが伝わるよう、まず見せる場所を整えました」と吉田氏。アーチ状の越前瓦は、交互に「織り上げる」ことで重く固い瓦のイメージがやわらかくなり、色と風合いが工芸品のような印象に。立体的な

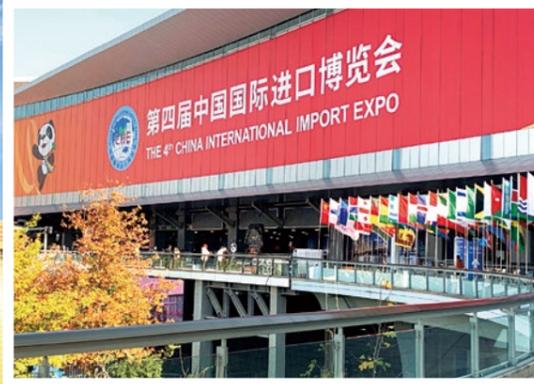
格子は光と風を取り込みながら、外からの視線を遮ります。装飾性があり再利用できるエコロジカルな素材は、福井駅前再開発事業施設や商業店舗の改修工事などに採用されています。

「一番期待しているのは、この製品を通して越前瓦が話題になること」と語る吉田氏。施工中、道行く人から「これは何ですか?」と声をかけられることが多く、「各地で施工しながらまちの人と瓦の話をしてほしい。そういうきっかけづくりから、瓦の興味関心につながれば」と思いを語ります。

また同社は、国内の特許・商標を取得。県のフランス販路開拓支援事業にも選定されました。「歴史・文化を内包する越前瓦は、世界に出ると日本的なものとなる。福井におもしろい建築がある」と、国内外から福井に行きたくなる要素のひとつになれたら楽しいですね」と微笑む吉田氏。越前瓦と福井の可能性を、日本へ、世界へ広げていきます。



色もカタチもシンプルな越前瓦は、木やガラス、コンクリートとの相性も抜群です。



中国国際輸入博覧会(CIIE)が開催

福井県上海事務所 永田 暁史

福井県上海事務所では、中国国際輸入博覧会(CIIE)への、福井県内企業の出展に支援を行いました。CIIEは2017年に中国の習近平国家主席が「一帯一路国際協力フォーラム」において開催を発表したもので、中国政府商務部および上海市人民政府が主催しています。上海市の国家会展中心^{※1}において2018年に第1回が開催され、以降、毎年秋に開催されています。

※1 上海にある総合展示会施設

そのため中国に輸入した商品を、展示会後にそのまま日本に送り返すだけでは非常にもったいないと感じます。異なる機会や会場で再び展示し、バイヤーと商談を行った後、販売するなど、展示会の後を考えていくことが必要です。

CIIEには127か国・地域から約2,900社の企業が参加しました。厳しいコロナ対策で入場者を制限したため、累計来場者数は48万人と、前年の実績(約61万人)と比べると大きく減少しましたが、成約額は707億2,000万米ドル(約8兆円)と、前年と比べて2.6%の微減にとどまりました。また、会場において新型コロナウイルス感染者はこの期間中1人も発生しませんでした。

中国最大の輸入品展示会であるCIIEは、中国の政策的に最も重要な展示会の一つです。来訪するバイヤーは圧倒的な数で、多くの成約につながっています。特に今年は、新型コロナウイルスを抑え込

新型コロナウイルスの影響と出展までの経緯

県事務所では、出展する県内企業が新型コロナウイルスの影響により中国に入国できないことを想定し、消費館に1ブースを確保するとともに説明員等を配置し、参加する県内企業やその代理店の社員が直接ブースに立たずとも商談ができるようサポートしました。結果、県内からは若狭塗箸、木材、眼鏡の企業3社が参加しました。

展示会が近づいてきた10月後半になって、中国では比較的落ち着いた新型ウイルス感染が再び広がりはじめ、いくつかの大規模な展示会、イベントが中止または延期となりました。県事務所が参加する予定であったイベントでも、浙江省の義烏輸入展示会が延期され、「上海ららぽーと」で開催予定だった観光PRイベントは中止になりました。

CIIEは果たして開催されるのかと心配していました。10月末にCIIEにおける新型コロナウイルス対策が発表されました。全ての出展者や来場者に入場前48時間以

内のPCR検査陰性証明およびワクチン接種証明書の提示を義務付けること、また、感染者が発生した地域に21日以内に滞在した人の入場を禁止することで、開催が決定しました。

このCIIEのコロナ対策に対応するため、上海市政府は市内各地に24時間対応可能なPCR検査会場を設置。また、会期中は展示会場敷地内にもPCR検査場が設置されました。私も、会期中に4回もPCR検査を受けることになりました。

実際、私の知り合いの方の中には、成都、重慶、鄭州など、新型コロナウイルス患者が発生した地域を訪れていたことから、入場を認められなかったり、出展を取りやめざるを得なかった方もいました。それほど中国の新型コロナウイルス対策は厳しく、CIIEを何が何でも開催するという、中国政府の並々ならぬ意気込みを感じました。

展示会の様子と所感

最近、中国では名刺を持参しないバイヤーが非常に増えてきました。後日、資料を求められることが多いので、面談時に安易に見込なしと判断すると、商機を逃すことになりかねません。WhatsAppの連絡先を交換するなど、後々コンタクトできるようなしておくことが大切です。

また、日本にいる出展者と展示会の会場に来たバイヤーとの間を、ネットで中継して商談ということも考えられましたが、実際はなかなか難しく、今回のCIIEではそのような機会はありませんでした。

そのほか、中国では越境ECが盛んで、展示会にも越境EC関係のバイヤーが多く訪れます。今後、一般貿易も含め、店舗での販売を中心に据えるのか、それとも越境ECでのみ売っていくのか、どのように商品展開していくのか考えることも重要なポイントではないかと感じました。

さらに、どの展示会に出るのが良いかを考えることも大切で、CIIEの他にも、総合的な展示会や専門的な展示会は多数開催されています。様々な展示会を経験して自社に合った展示会を見つけていただきたいと思います。

ところで、展示会に出展す

【出展者の声】

- 今回は、中国市場に初めて商品を出す機会だったので、まずは、その第一歩として、中国の消費者・バイヤーの方の感想を聞いて良かった。
- 中国に渡航できない中、代行をしてもらえ、中国の展示会に出展することができ感謝している。
- 中国の消費者の方から、肯定的な意見も多数もらえたので、今後どのように中国市場に商品展開をしていくか考えたい。

【展示会場外の取り組み】

上海の一等地、南京東路にあるCIIEをテーマとした店舗では、日本、韓国、アルゼンチン、ベルギー、スリランカなど40以上の国と地域から、これまでのCIIEに出展された商品の中から選ばれた、一部の商品が販売されています。ここではCIIEの終了後もその商品を購入することができ、日本のお酒、招き猫のマグカップ、スリランカの紅茶など世界中から集められたユニークな商品が通年販売されています。

またJETROも、CIIEのJETROブースに出展した商品を販売する「虹橋品匯日本館」を、上海市の虹橋空港の近くに設けました。ここでは約500ブランド2,000商品を扱い、中国各地のバイヤーが年間を通じて、日本に直接赴くことなく、優れた日本の商品を体験し、購入・商談することができます。JETROではこのような「日本商品基地」を、今後、海南省、四川省や重慶市など中国全土に拡大していく構想だとのこと。

これに加え、新型コロナの影響で中国に渡航することが難しくなるに伴い、越境ECによる販売需要が高くなってきていると感じます。JETROは今回のCIIEで展示した商品の横に、越境EC用のQRコードを記載したPOPを掲示し、商品を体験して気に入れば、そのままQRコードを読み取り越境ECを通じて商品を購入できるようにしていました。

み、何とんでもなくCIIEで成功させたいという中国政府の思いを強く感じました。

この中国政府の強い思いがあるからこそ、大企業を初め多くの企業がCIIEを重要なマーケティングや商品PRの機会と位置付け、毎年出展しています。

来年のCIIEには多くの県内企業の方が出展し、現地でも活発な商談が行われることを期待したいです。

お問い合わせ先
福井県 産業労働部 国際経済課
福井市大手3丁目17-1
TEL 0776-20-0366
Mail kokusai@pref.fukui.lg.jp

経営に関するご相談はふくい産業支援センターの「オンライン総合相談窓口」をご利用ください！

オンライン総合相談窓口では「**頑張る県内中小企業**」の課題解決をサポートしています！

「商品開発や販路開拓」「マーケティング」「生産現場の見える化や現場改善」「事業計画や経営戦略立案」「新分野進出」「新規創業」「各種補助金の活用」等、県内企業の皆様が抱える様々な課題にセンターの総合相談コーディネーターがご相談に対応しています。ZOOMやEメールなどを使ったオンライン相談も可能です。

相談無料
秘密厳守

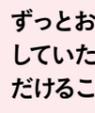
《 総合相談コーディネーター 》

| 月曜日 | 火・水曜日 | 水曜日 | 木曜日 | 金曜日 | 水曜日(嶺南) | |
|---|--|---|--|---|---|--|
|  <p>加藤 永俊 【専門】経営全般、創業支援、マーケティング、経営革新、事業承継 【資格】中小企業診断士、JMAA認定M&Aアドバイザー</p> |  <p>佐治 眞悟 【専門】経営全般、技術全般、生産管理、ISO認証取得 【資格】中小企業診断士、技術士(総監・機械・建設)</p> |  <p>佐々木 孝美 【専門】経営全般、創業支援、IT活用、SNS活用 【資格】中小企業診断士ほか</p> |  <p>津田 均 【専門】経営全般、マーケティング、流通・小売・サービス業の相談 【資格】中小企業診断士ほか</p> |  <p>松田 博史 【専門】経営全般、製造業の現場改善、生産管理、事業承継 【資格】中小企業診断士、ものづくり改善インストラクター</p> |  <p>北島 宏樹 【専門】経営全般、創業支援、IT活用、テレワーク導入 【資格】中小企業診断士、ソフトウェア開発技術者(IT系)</p> |  <p>前野 壽伸 【専門】経営全般、生産管理・生産技術、6次産業化支援 【資格】中小企業診断士</p> |

《 オンライン総合相談窓口利用者みなさまの声 》



普段、仕事をしていてもなかなか考えがまとまらず困っていましたが、相談をきっかけに「どうしたら」「どのようにして」と論理的に考える事ができるようになりました。今後とも定期的にアドバイスをいただきたく宜しくお願い致します。



ずっとお世話になっています。色々なことがあります、継続的に支援をしていただいているので、すぐに状況が伝わり、的確なアドバイスをいただけることで安心できます。



創業前から相談し、手続きや準備を含めて的確なアドバイスをいただき大変助かりました。創業後も適宜アドバイスを受けています。予約も空き状況がわかりやすく、ネット上で申込みができるので、時間外でも受け付けてもらえるのが大変便利です。



お知らせ

事業再構築補助金活用セミナー

開催日時

【福井】令和4年2月2日(水)

【丹南】令和4年2月8日(火)

開催時間 / 13:30~15:00

各回定員 / 6名程度迄 ※先着順

申込・問合せ

福井県よろず支援拠点

TEL 0776-67-7402



詳細は右記の案内HPから→



2021年度グッドデザイン金賞受賞



使い捨て長袖プラスチックガウン[easy 脱着ガウン] / 株式会社ミヤゲン

「easy 脱着ガウン」の開発は、昨今のコロナ禍において、不足・高騰した防護服を使い回すために、市販のごみ袋を加工して使用しているという報道がきっかけとなった。そこで当社は袋メーカーとして、現場の最前線に立つ医療従事者の負担を少しでも減らすことができなかと考え、防護服の上から着る使い捨てガウンの開発に取りかかった。患者の飛沫がかかる可能性の高い前身頃を大きく取り、それらをガウンが受け止めることで下に着ている不織布製の防護服を守る。また、ガウンだけを使い捨てにすることで着替えの手間を減らし、常に衛生的な状態で患者の診療や看護にあたることができる。

ごみ袋から防護服を作るというアイデアは、度々報道された。少々不恰好でも少ない加工で手間なく作り上げられた防護服を見て、いかにシンプルな設計にできるか検討した。そこで、2016年グッドデザイン特別賞受賞したレジ袋「キャリアカップ」の技術を応用し、約6か月の時間を費やして開発。着用時に頭や手の大きさに合わせて必要なだけ開く首元と袖口を実現。また背面のみに縦一本のミシン目を付けることで、破って脱ぐことができ、裏表を返すように脱ぎ、ガウン付着したものを内側に留めることで、脱衣時の二次感染のリスクを低減させる。

「easy 脱着ガウン」は、感染リスクのある医療・介護の現場にとどまらず、ごみ袋の材料さえあれば生産が可能。そのため、塗装現場など汚染から身を守る簡易防護服としていつでもお届けすることができる。

【審査委員の評価】

担当審査委員 | 本田 敬 安東 陽子 岡本 健 服部 滋樹

ワクチン接種などで、防護服を一般市民が目にする機会が一段と増えた。それは急激に需要が増えたということでもあり、品薄の時期には市販のごみ袋を加工して急場をしのぐなど、医療現場での混乱がうかがえた。これらの報道をきっかけに、ポリ袋メーカーならではの技術・こだわりで、素早く行動を起こし、本製品を市場に供給したことを高く評価したい。着用時に頭や手の大きさに合わせて必要な範囲だけ開く首元と袖口を実現し、背面には縦一本のミシン目を付けることで、簡単に破って感染の危険性が高い前面を内側に巻き込んで脱ぐことができる。これらは、不織布の代替品ではなく、ポリ袋メーカーだからこそ実現できるアイデアを、医療従事者とともに連携して作り上げた点が高い評価につながった。



グッドデザイン賞のWeb Siteもご参考に!

F-ACT読者アンケートの記入についてのお願い

今回、当情報誌の掲載内容につきまして、アンケートを実施することと致しました。皆様が日頃関心をお持ちの事柄やご要望をお伺いするものです。

つきましては、お忙しいところ申し訳ございませんが、当アンケートの趣旨をご理解いただき、下記の方法にてアンケートにご回答いただきますようお願い申し上げます。※回答時間は2～3分です。

特集テーマや取材先の企画にとっても助かっています!

ご回答方法 ①同封のアンケート用紙によるご回答
→郵送または、FAXでご返送ください(同封の返信用封筒をご利用ください)
FAX番号 0776-67-7419 まで

②Webでのご回答：(公財)ふくい産業支援センター HPより
右のQRコードからご回答いただけます



ご回答期限 令和4年2月25日(金) ※集計の都合上、期限内のご回答にご協力をお願いいたします。

お問い合わせ (公財)ふくい産業支援センター 総務部 担当:上野、山田
〒910-0296 坂井市丸岡町熊堂3-7-1-16 TEL 0776-67-7414

DXデビューしませんか?

～県内企業のDX導入事例の紹介～

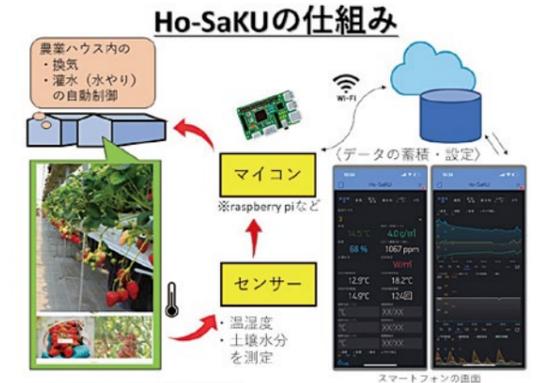
ふくいDXオープンラボは、DX技術の導入支援や人材育成を支援しています。
ここではDXラボを活用した県内企業のDX導入事例を紹介します。

農場へのIoT導入により農業の自動化を目指す

当社は施設園芸を中心に事業を展開しており、苺2,300㎡、トマト4,300㎡の農業用ハウスを所有しています。近年は近隣企業と連携し、観光バスを誘致して苺狩りも展開しています。また、昨年オープンした直営店舗では苺ジャムやトマトジュースの加工品の販売も行っています。現在は、新たな取り組みとして、農業ハウス内環境の自動制御を可能とするスマート農業を導入しており、IoTによる農業の自動化を目指しています。

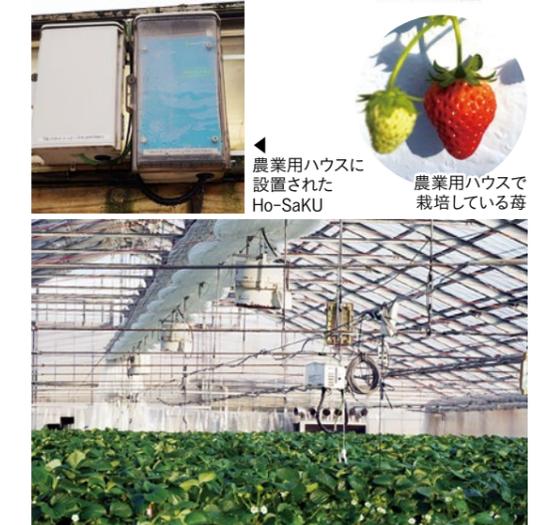
《導入機器》農業用ハウスにおける統合制御システム

当社の農場ではWi-Fiネットワークを構築しており、統合制御システムにより農業用ハウス内の換気、灌水を自動で管理しています。統合制御システムにはグラスITフィールズ株式の「Ho-SaKU」を使用しています。「Ho-SaKU」ではハウス内のセンサーで測定した温湿度、土壌水分、二酸化炭素濃度といったデータをスマートフォンから閲覧でき、さらに各測定値に応じて灌水や窓の開閉を自動で行うことができます。



担当者の声

昨今、農業従事者の高齢化が進む中、農業を未来につないでいくためには、おいしい農産物を提供するためのデータを蓄積し、あらゆる不便を解消する必要があると思っています。これまで農業用ハウスの融雪システムや苺培地の低コスト化、収穫時期判別アプリの開発など、さまざまな農業関連システムの開発に取り組んできました。今後は、高齢者や障害者でも安心して農業が行えるように、農作業を補助できるロボットを導入したいと考えており、ますます農業のDX化を加速できればと思っています。



農業用ハウス内部の様子

会社概要

明城ファーム株式会社 [農業]

越前市杉崎町7-11 代表者:明城 義和氏 TEL 0778-42-7607
URL https://myojo-farm.jp E-mail info@myojo-farm.jp

お問い合わせ先

(公財)ふくい産業支援センター DX推進チーム
TEL:0776-67-7416 FAX:0776-67-7439 E-mail:dx-t@fisc.jp



令和3年分 申告所得税、贈与税、個人事業者の消費税の確定申告と納税は正しくお早めに!



●申告書の作成・送信は自宅で国税庁ホームページ「確定申告書等作成コーナー」が便利! スマホでの申告はこちらから!

- STEP1 国税庁ホームページへアクセス スマホやパソコンで24時間いつでも申告書等が作成できます。
- STEP2 申告書を作成 画面の案内に従って金額等を入力すれば税額などが自動計算され、簡単に作成することができます。
- STEP3 申告書を提出 国税庁ホームページからe-Taxで送信するか、印刷して郵送等で提出できます。

e-Taxの送信方法は2通り

◆マイナンバーカード方式

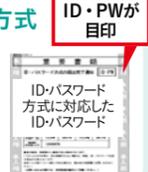
①マイナンバーカード+②マイナンバーカード読取対応のスマートフォン



パソコンの画面に表示された2次元バーコードをスマホで読み取れば、ICカードリーダーがなくてもOK

◆ID・パスワード方式

税務署発行の「ID・パスワード方式の届出完了通知」をお持ちの方



●相談はチャットボットや電話でもできます

申告書の作成でお困りのときは、「税務相談チャットボット」にご相談ください。ご質問を入力いただければ、AIを活用した「税務職員ふたば」がお答えします。

また、国税庁ホームページの「確定申告書等作成コーナー」の操作に関するお問い合わせの多い質問については、同コーナーの「よくある質問」に掲載していますので、ご覧いただくかお近くの税務署にお電話いただき、自動音声案内に従い『0』を選択して、「確定申告コールセンター」にお問い合わせください。

税務職員ふたば



●税務署での申告相談受付期間

税務署での申告相談の受付期間は、令和4年2月16日(水)から3月15日(火)です。
受付時間：午前9時～午後4時 月曜日～金曜日(祝日を除く)

確定申告会場内の混雑緩和のため、会場への入場の際には、「入場整理券」が必要となります。入場整理券は会場で当日配付するほか、国税庁のLINE公式アカウントでのオンライン事前発行も行っておりますので、ぜひご利用ください。



国税庁LINE公式アカウント

お問い合わせ

福井税務署 TEL(0776)23-2690 武生税務署 TEL(0778)22-0890 大野税務署 TEL(0779)66-2180
敦賀税務署 TEL(0770)22-1010 小浜税務署 TEL(0770)52-1008 三国税務署 TEL(0776)81-3211

情報収集と情報発信、企業・イベントPR等に！
「ふくいナビーふくいの企業支援施策を見つけるためのポータルサイト」
をご活用ください

(公財)ふくい産業支援センターでは、県内企業の皆さまの経営に役立つ情報を集めたポータルサイト「ふくいナビ」を運営しております。

「ふくいナビ」では、下記のようなサービスを提供しておりますので、ぜひご活用ください。

イベント情報や公募情報などをまとめて見られる！

県内中小企業支援機関による講演会・セミナー等のイベント情報や、国・県等による助成金等の公募情報など、経営に役立つ情報が盛りだくさんです。

メルマガ、メーリングリストなどを無料で提供！

企業と顧客、あるいは企業同士でのコミュニケーション・ツールとして利用できる、メルマガジンやメーリングリスト等の機能を、無料で提供しています。

県内企業の情報を自ら発信！

県内中小企業の皆さまが、自社で開催するイベントや新製品の情報などを自ら発信することができます。



毎週月曜日、「ふくいナビ」の情報の中からタイムリーな情報をお届けするメルマガジン『週刊！ふくいナビ情報』を配信しています。配信をご希望の方はメールアドレスをご登録ください。

お問い合わせ先 ふくいナビ運営事務局
【(公財)ふくい産業支援センター 総務部】
TEL.0776-67-7414 E-mail info@fukui-navi.gr.jp



本誌「F-ACT(ファクト)」を活用して会社をPRしよう！

企業情報メール便

販路開拓のチャンス！
本誌にチラシを同封できます

本誌では、企業情報メール便（チラシ同封サービス）を毎号実施いたします。配送先は、県内事業所約1,700社です。この機会に、貴社の商品・サービスを幅広く紹介しませんか？



●次回実施号
VOL.52 3月25日発行予定

チラシ提出締切日：3月18日(金)
チラシ1,700部をご提出
(持参または配送) 願います。

| 同封するチラシ・パンフレットのサイズ | 料金(税込) |
|--|---------|
| A 4判以下のチラシ | 6,600円 |
| A 4判超～A 3判以下のチラシ (二つ折にしてA4判以下のサイズにすること) | 9,900円 |
| A 4判以下のパンフレット (10ページ程度まで) | 13,200円 |

※チラシ・パンフレット1種類当たり1回分の同封料金です。

ご利用を検討の方は、事前に、電話または電子メールにてご連絡ください。1号につき約10社まで受け付けます。

なお、申込状況および掲載内容によりお断りする場合があります。

お問い合わせ先 (公財)ふくい産業支援センター 総務部 F-ACT担当
TEL:0776-67-7414 e-mail:kouhou-g@fisc.jp

本誌に関するお問い合わせは

fisc 公益財団法人 ふくい産業支援センター <https://www.fisc.jp/>
総務部 TEL 0776-67-7414/FAX 0776-67-7419/E-mail:kouhou-g@fisc.jp
〒910-0296 福井県坂井市丸岡町熊堂第3号7番地1-16 (福井県産業情報センタービル内)

皆様の声を
お聞かせください!!

「〇〇が面白かった、ためになった」、
「△△をもう少し□□にしたらどうか」、
「●●のテーマについて紹介して欲しい」、
「▲▲会社がやっている■■■について取り上げて欲しい」など、本誌を読んだ感想や、要望など、皆様のご意見をお待ちしております。

編集後記

こんにちは！最後まで読んでいただきありがとうございます。

今回、現場改善最前線と題し、ものづくり改善インストラクタースクールの受講や、インストラクター派遣を通じて現場改善に取り組んでいる企業様を中心にお話を伺いました。

取材でお話を伺う中で印象的だったのが、「異業種の方との意見交換が大きな収穫だった」と話されていたことです。スクールでは、改善の手法や視点を学ぶことももちろんですが、受講生の方たちとの交流にも大きな価値があるのだな、と感じました。来年度もスクールを開催する予定ですので、ぜひ受講をご検討ください。

話は変わりますが、今回のF-ACTにアンケートを同封しております。P20のQRコードからもご回答いただけますので、ぜひ皆様のご意見をお寄せください。

次号の発行は3月25日です。今後ともご愛読、よろしく願いたします。



株式会社Shell

若狭塗箸の販売店が小浜市にオープン

2021年7月、若狭塗箸の販売店が小浜市にオープンしました。店主の榎野太郎氏は元々若狭塗箸の卸売りの会社に勤めていましたが、当時の社長が高齢だったため、事業を引き継ぐことを決意。同店舗のオープンに至りました。

店舗内は「限られたスペースの中でできるだけ多くの箸を見てもらいたい」という思いから、壁掛け式の陳列を採用。足を踏み入れると、壁一面に色とりどりの箸が並んでおり、その美しさに目を奪われます。榎野氏は、店舗の今後を「会社の事業としてはまだまだ卸売りがメインですが、ゆくゆくは店舗での販売も広げていきたいですね」と展望します。

また、同店の2階では妻の真理氏がまつげエクステサロンを営んでいます。元々は美容室の一角で行っていましたが、店舗のオープンとともにこちらに移転。完全予約制で施術を行っています。「施術に来られた方が、1階の店舗で塗箸を購入されましたが、出入口を一緒にして良かったですね」と榎野氏。

お気に入りの1膳を探しに、足を運んでみてはいかがでしょうか。

活用事業：令和2年度 ふるさと企業経営継承円滑化事業（事業創継・再編統合型）



株式会社shell
住所：小浜市小浜住吉70-1
TEL：0770-64-5781
営業時間：9:00～17:00

話題の
新スポット巡礼

県内企業が打ち出した気になる新スポットに「コン」編集担当が訪問。その空間に込められたコンセプトやこだわり、企業の想いをお届けします。

No.23

福井県産業情報センタービル 貸出施設のご案内

リーズナブルな料金で手続きも簡単！

様々なニーズにお応えします！

福井県産業情報センタービルでは、イベントホールや各種会議室、IT研修用のパソコン実習室など貸出施設を提供しています。全室に有線LAN、無線LAN(共有回線)を完備していますので、オンラインでの研修や講演会でもご利用いただけます。

マルチホール・各種会議室



100名規模
ならコチラ！

マルチホール

230インチ超のステージ壁全面スクリーン(ヨコ8,600mm×タテ3,600mm)や音響・映像機器を備えた多目的ホールです。



少人数～
50名規模
ならコチラ！

会議室 (A/B/C/システム設計室)

少人数での会議やセミナー、オンラインセミナーの発信会場としてもお使いいただけます。

オンラインセミナー・講演会でのご利用者増えています！

パソコン実習室・マルチメディアサポートセンター



パソコン実習室 (A/B)

Windows対応のパソコンを使用するセミナーや研修にご利用いただけます。それぞれ受講者用20台と講師用1台の機器を設置しています。豊富なソフトを標準でインストールしており、インターネットにも常時接続しています。



マルチメディアサポートセンター

4K対応の撮影機材や、4K対応のノンリニア編集機、自社製品・サービスのPR動画撮影が可能な収録スタジオといったマルチメディア関連施設を低料金でご利用いただけます。

詳しくは
コチラ！

- 各部屋の詳細情報
- 料金
- お申込方法
- 休館日

上記についてはWebサイトをご覧ください。



お問合せ先

fisc 公益財団法人 ふくい産業支援センター 総務部 施設管理担当

TEL 0776-67-7415

FAX 0776-67-7419

E-mail shisetu@fisc.jp